

奈良の魅力をこだわりの手づくりでアピール

株式会社 なら町長屋 (奈良県奈良市)

奈良の土産物が少ないことに疑問を感じ、奈良をイメージできる商品を創っている会社がある。奈良市でオリジナル日本手ぬぐいや雑貨の企画・販売を行っている「株式会社 なら町長屋」である。

近年、奈良では官民の努力が相俟って、「奈良のうまいもの」が出揃ってきた。しかし、土産物とはいうと、コレがなかなか見当たらない。特に、奈良の人が他地域へ行くときに持っていく土産物といえば土産菓子以外にほとんど適したものがないというのが実状ではないだろうか。

株式会社なら町長屋は1989年より奈良市の中心街にある「もちいどのセンター街」において婦人服などの小売を行っていた。同社の湯脇智子社長は「ただ仕入れて売だけの小売業では将来はない」と感じ、奈良をよりアピールできる斬新な商品をつくれなかと考えた。

そこで目をつけたのが「日本手ぬぐい」。たたむとかさ張らず、広げるとボリュームがあり、それでいて数々の使い方ができる、日本古来の便利なものでありながら、すでにあまり使われなくなってきている。奈良の土産物として、これにもう一度命を吹き込むことはできないかと考えたのであった。



ならまち身代わり申

猿沢池の亀

奈良筆

奈良にふさわしいオリジナルブランド「朱鳥」を立ち上げるとともに、奈良をイメージできる商品とするため、ならまちの身代わり申や猿沢池の亀、奈良筆など奈良をモチーフにしたオリジナルデザインの手ぬぐいを次々と制作していった。一

方、素材には国内最高級の綿生地を使用し、染めには最も古い染色技法を源流とする注染ちゅうせんと呼ばれる伝統的な技法を使用。さらに注染で使う型紙も数枚の和紙を貼り合わせた柿渋紙に彫刻刀で一つひとつ手彫りする職人技を活かすなど品質にもこだわりを持ったものづくりを心がけた。

また、これを利用して、これまでのれんやスニーカー、アロハシャツ、禪ふんどし、ベビーエプロン、ブックカバー、トートバッグなど日本手ぬぐいを活かした数々の布製品、雑貨を制作してきた。



注染で染めた色鮮やかな布はのれんやスニーカーなどいろいろな用途に応用できる

さらに、布の四隅に紐を通すことにより、弁当やペットボトルの持ち運びには手提げ包みとして、食事のときには広げてランチョンマットとして使用できる巾着袋などをはじめ、日本手ぬぐいなどの素材を使ったエコグッズの提案にも取り組んでいる。

こうしたものづくり、アイデア企画等が評価され今年の3月から百貨店や女性向け小物雑貨店等への卸販売が始まっている。湯脇社長は「2009年は小売業からメーカーへの変革の年」と夢はさらに広がっている。

(井阪 英夫)



株式会社 なら町長屋

〒630-8217 奈良県奈良市橋本町1番地

TEL : 0742-22-1991

URL : <http://www.akemitori.jp/>